

創立二十周年記念式典

委員会発足す

戦後の混乱から立直って、昭和二十三年十一月六日に創立されて以来、今年は九十二年目になります。早いと言えば早いのですが、思えば長い歩みでありました。この二十周年は過去の歴史の百年・二百年にも相当する激変振りであって、私達は日本史上かつてない経験をしたと言っても決して過言ではありません。

去る昭和三十四年十一月十四日に結成十周年を盛大に祝いました。が、今年には二十周年に当りますので、式典は、別項の通り特別委員会の手で着々と準備が進められています。当日は大府知事、大阪通商産業局長、大阪市長、大阪商工会議所会頭の外、業界代表として日本ねじ工業協会会長、全国鉄鋼産業連合会長、大阪卸商連盟会長、大機連会長外多数の来賓臨席の下に、来る十一月十五日(仮定)午前十一時から新装白亜の大阪商工会議所四階大会議室で、意義深い創立二十周年記念式典と、本会の運営と発展のために努力していただいた役員への感謝状の贈呈式及び十年以上の永年勤続従業員、優良従業員の表彰式を挙行することになっております。

功労役員優良従業員の知事表彰
功労役員に対する組合の感謝状
贈呈
優良従業員の組合表彰
被表彰者代表の答辞
来賓の祝辞

以上で式典を終了し、来賓、役員
会員、被表彰者一同で記念撮影を
行ない、終つて六階宴会場で祝
賀パーティを盛大に行なつて、全
行事を終了する予定であります。

本会はこの行事を一大契機とし
て積極的な前向き姿勢をとり、
流動的な経済情勢に対処し、商業
会としての本来の使命、達成に全
力を傾注する計画であります。

この意義深い晴れの式典を順調
に取行なうべく慎重を期し、役員
とは別個に次の通り特別に「二十
周年記念式典委員会」を設け、既
に準備のための各種の交渉や段
取りに入つて居ります。

しかしその一方で、非常な手間
と時間を掛け、数ヶ月の長い間
人目につかず地味な調査や関係文
書の作成やら、煩わしい交渉を
する関係委員や事務局の労苦を
会員の皆さんと共に大いに多し
なければと思ひます。

二十周年記念式典委員会の構成
委員長 岡田 総七郎
委員 小林 正治

総務部	部長 辻 輪三
委員	藤 沢 寅雄 由 良 義一 鏑 平 太良 渡 部 太一 石 井 勘一 小 林 良三 小 林 勝三 田 島 喜代次 福 田 蓮造 酒 井 好光
式典部	部長 大山 武雄
委員	高 橋 義孝 岡 田 勝二 熊 田 信雄 前 野 一雄 井 上 好三郎 西 沢 信雄 池 田 竜造 伊 藤 三治 大 喜 多 克己 中 本 博之 八 幡 進
表彰部	部長 筒井 清次
委員	奥 山 好太郎 松 田 一郎 大 畠 邦太郎 山 里 邦太郎 河 野 栄
祝典部	部長 岡田 総七郎
委員	小林 正治

大鉄商のヤングパワー 期待されるOSS会

大鉄商会員の二世会としてOSS
会が誕生して七年目になる。誕生

当時は三十才前後であった者が、
七年経った今日では、或は社長に、
或は専務に、或は営業部長となつ
て経営の第一線に立つて居る。結

成の動機は、二世を中心とした青年経営者のグループを作り、経営活動を勉強しようということであった。日に月に進んで止むことのない技術革新・大量生産システムの進出・新しい流通機構の研究と確立・その他経営者としての心構え等々、勉強しなければならぬことは山程ある。これが若手経営者をグループ化してOSS会を結成させた要因だと思ふ。勉強ばかりではなく、相互の親睦を図つてお互いの意思を十分疎通し、信頼を深め合うことがうたわれていることは勿論である。

文化部の新年度事業

今年重点的

OSS会の由来は、大阪のO、昭和・商社・スクリーンの三つのイニシアールのSを冠したもので、会には会長制を採用していないのが特長である。四名の幹事制で、これは輪番で就任することになっている。事業としては、経営管理・労務・税務・新製品知識等、経営者としての必要な講習会の開催・工場見学等を行つて居る。

結成以来、これ等の事業運営を通じ、若手経営者としての共通の悩みを卒直に話合つて相互紐帯と信頼感を深め得たことが大きな収穫である。

メンバーは現在十九名で、会合の出席率は毎回一〇〇%に近い高率を示して居ることから見て、メンバー全員が自分等の会に寄せる熱意の並々なものが見取られる。

大阪金属問屋厚生年金基金が充足

かねて書類で御通知して加入をお奨めした、大阪金属問屋厚生年金基金が愈々四月一日に設立充足した。

現在加入会員は二九四社で、当会からは左の会社が加入している。

- (株)石井勘、池田金属工業(株)、井上鉄鋼工業(株)、大喜多鉄鋼(株)、尾崎商店、(有)鋳平、(株)加納弥輔商店、協和鉄鋼(株)、小林産業(株)、呉鉄鋼産業(株)。

- (株)三和商會、第一ボルト(株) 太洋ねじ(株)、大和鉄鋼工業(株) 藤沢鉄鋼(株)、(株)前野商會、(株)丸正ネジ、岡總(株)、三興鉄鋼(株)、ニッソー金属工業(株)、(株)丸エム製作所、明和鉄鋼(株)、(株)相生製作所、(株)大山商會、阪根産業(株)、(株)三晃商店、大一工業(株)、(株)湯川商店、小林鉄鋼(株)、精工商事(株)、秋津鉄

激動する国際情勢、動揺する国内情勢、変貌する経済界の今後に対処して行く、若手経営者の感覚と情熱は、正に大鉄商のヤングパワーであつて大きな期待を寄せられている。今後の方向として

- (1) 講演会・見学会の充実
 - (2) 資本自由化による外国資本のネジ業への進出対策
 - (3) 大商社のネジ業界への進出対策
 - (4) 変貌する流通機構の研究とその対策
 - (5) 各地のネジ商社或はメーカーが作っている二世会との積
- 極的な交流の実現
等で、極めて現実的で確つきりと足を地につけて居る。
若手経営者や二世の方の加入を強く希望している。
入会金五千円、四十才以上になれば幹事にはなれない仕組みになっている。入会申込は左記の幹事の所へ。
- 井上鉄鋼工業(株) 井上 好一 電(五四四)七七二一
 - 今里金属(有) 大江 理達 電(九七二)〇六五一
 - 三興鉄鋼(株) 奥山 泰弘 電(七六二)〇二二一
 - 八幡鉄鋼(株) 八幡 進 電(七六二)七六四四

文化部では、五月十四日に部会を開催して本年度の実施事業について協議した結果、今年十一月に二十周年記念という大きな行事があるので、予算面とも視察させて重点的に実施することを決定した。この日の部会で注目すべきものとしては、麻雀大会やクリスマス舞踏会のようなものはと角弊害が生じやすいので本会の事業として取上げないことにした。会としてやるからには健全であることが必要だと言ふ健全な意見が圧倒的であった。総合運動会という意見も出たが、二十周年記念行事の準備と

重なつて都合が悪いので来年度に実施することとし、今年中に充分競技種目、運営方法を研究することになった。

結局、今年(1)野球大会(2)ボートルグ大会(3)スキー大会のビッグスリーに集約し、これにバスマーを加えることになった。

何しろ会員の従業員合計は二、四〇〇人にも達するので、今まで実施しても非常に参加が少なかつた、ハイキング、釣り会、バスマー等は、本会が誘導してなるべく任意のサークル活動として実施するように指導奨励すること申し合せた。

<p>五月十五日</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉄鋼会館 午後二時～五時 事務局設置並に会費改訂の件 会費の銀行振込の件 大阪府中小企業団体中央会古川指導係より、中小企業等協同組合の説明の件 藤見事務局長の紹介と挨拶 二十周年記念式典立委員委員 三月十一日 鉄鋼会館 午前十一時～午後二時 二十周年記念式典委員会の構成の件 同運営の件 同予算の件 総務部委員会 二月二十五日 鉄鋼会館 午前十一時～午後一時 二十周年記念式典に運営委員選出の件 四月二十六日 鉄鋼会館 午前十一時～午後二時 昭和四十四年度定時総会開催の件 五月二十一日 鉄鋼会館 午前十一時～午後一時 定時総会運営の件 六月十日 鉄鋼会館 午前十一時～午後一時 会報第一号の記事、会員日より等の検討の件 経営部委員会 一月十六日 鉄鋼会館 午後三時～五時 包装数量統一問題の件 二月十四日 鉄鋼会館 午後三時～五時 包装数量統一問題促進の件 二月二十五日 鉄鋼会館 午後三時～五時 包装数量統一の六角ホルト委員会を開催 四月十五日 鉄鋼会館 午後三時～六時 包装数量統一問題促進の件 ネジ流通機構の変化に対処するの件 	<ul style="list-style-type: none"> 鉄鋼会館 午後三時～五時 包装数量統一問題に付本会案をメーカー団体に提出促進の件 五月二十日 鉄鋼会館 午後二時～五時 大阪鉄鋼商工協議会主催の、包装数量統一製販合同協議会に全委員出席して意見交換 文化部委員会 一月十五日 鉄鋼会館 午後一時五分～五時 春の野球大会開催の件 陸上運動会計画の件 五月十四日 随園 午後六時～八時 昭和四十三年度事業実施報告の件 本年度事業計画決定の件 二十周年記念式典総務部会 六月十二日 鉄鋼会館 午後一時～三時 総務部担当範囲について 予算規模の審議 来賓・祝辞等について 各種印刷物について 二十年誌の編集について 式典会計について 二十周年記念式典表彰部会 六月十七日 鉄鋼会館 午後一時～三時 表彰部の担当範囲について 記念品の選定について 昭和四十三年年度監査 六月四日 由良産商(株) 午後一時～二時 昭和四十三年年度決算書監査施行 	<ul style="list-style-type: none"> 鉄鋼会館 午後二時～五時 大阪鉄鋼商工協議会主催の、包装数量統一製販合同協議会に全委員出席して意見交換 文化部委員会 一月十五日 鉄鋼会館 午後一時五分～五時 春の野球大会開催の件 陸上運動会計画の件 五月十四日 随園 午後六時～八時 昭和四十三年度事業実施報告の件 本年度事業計画決定の件 二十周年記念式典総務部会 六月十二日 鉄鋼会館 午後一時～三時 総務部担当範囲について 予算規模の審議 来賓・祝辞等について 各種印刷物について 二十年誌の編集について 式典会計について 二十周年記念式典表彰部会 六月十七日 鉄鋼会館 午後一時～三時 表彰部の担当範囲について 記念品の選定について 昭和四十三年年度監査 六月四日 由良産商(株) 午後一時～二時 昭和四十三年年度決算書監査施行
---	---	---

祝 賀 刊

岡 総 株 式 会 社
 代表取締役 岡田 総七郎
 大阪 市南区 鍛冶屋町 六六
 電話 (06) 252-5501 大代表
 〒 5 4 2

藤 澤 鋳 螺 株 式 会 社
 代表取締役 藤澤 寅雄
 大阪 市西区 立売堀北通四丁目四八
 電話 (06) 532-5541
 〒 5 5 0

大 山 鋳 螺 株 式 会 社
 代表取締役 大山 武雄
 東大阪 市玉串町西二丁目一ノ二
 電話 (0729) 62-2631~5
 〒 5 7 8

大商社の業界進出

変貌するネジの流通

四月二十二日の役員会で、この問題で真剣な討議が行なわれ、全国的なネジ関係の生産高が一千億にも達しようとする程急激に伸びたので、大商社が進出を計画するのは一面から言って当然と言えます。むしろ遅い位だと一部では言われております。

ネジの品種・寸法、その他の区分は正に文字通り千差万別で、この煩わしさが今日まで大商社の進出を阻み、この業界の特殊な地位を保証してきたと言えらると思えます。

会員だより

- ◇由良産商(株)では、四月十二日午前九時から新社屋竣工記念式を、取引先・関係先多数を招待して盛大に挙行了した。
- ◇(株)大山商社は、この度建坪二、三、四平方メートルの倉庫を増設した。
- ◇(株)太平鋳螺製作所は、二月十日に社屋の新築落成式を盛大に行なった。
- ◇水平鋳螺工業(株)では、六月六日に創業四十周年と会社設立二十周年式を盛大に挙行了した。
- ◇会員だより、については、お願ひ、会員によりには、
- (1)社屋の新築増築・移転
- (2)支店・出張所・営業所の開設
- (3)社名・電話番号の変更
- (4)会員並にその社員の受賞、善行
- (5)会員の異動(代表者)
- (6)会員会社の記念式典
- (7)会員の海外旅行(観光旅行は除く)
- (8)慶弔(会員に限定)

編集後記

◇とかく官公庁、組合、団体の発行する機関紙や会報というものは、型にはまり過ぎて余り読む気が起させぬものであります。

発行する主体の性格から止むを得ないのでありますが、大銀商編会報はその点に充分留意して集めて行こうと思ひます。

◇原稿や投稿を依頼しても仲々集まらず、編集者泣かせになるのがこうした刊行物の最大の悩みです。

大銀商会報はそう言うふうにならず、会から会員への伝達紙にならぬようどしどし記事になる原稿を送って下さい。

◇第一巻第一号は記念すべき本会の情報活動第一号であります。とて会員各位に御満足を与えることはできないと思ひます。号を追うて研究努力して立派なものにして行く決意ですから、どうかあなたがかい眼で見守って育てて下さい。

◇せまい欄ですが文化、文芸記事も載せます。どうか楽しい原稿をお願ひします。

◇会報は年四回、三ヶ月毎に発行することにしてあります。

◇この発行費は協賛広告で賄うことにしています。第一号発行に際しましては、この主旨が皆様に徹底してありませんでしたので、特定の会員にお願い致しました。が、毎号五社の広告をお願いしたいと思っておりますから、何卒御支援下さいますようお願い申し上げます。

◇広告スペースは、8×12センチで、料金は五、〇〇〇円であり、第二号からは凸版も入れています。第二号からよろしくお願ひいたします。

◇編集をどうかお寄せ下さい。今後の編集上の貴重な資料とさせていただきます。

しかし時と共に規格の統一が喧かましくなり、好むと好まざるにかかわらずスズやインが普通化してきておることは御存知の通りです。大量生産は合理化と規格化を必然的に要求するので、ネジの生産も漸やく大量生産が本格的な軌道に乗ってきたので、ここに大商社が乗り出す素地が既に出来上ったと見なければなりません。

販売にも手を染めることが予想されます。こうして今迄で中小企業の独壇上であったネジ業界も、製販両面にわたって大資本の攻勢を受けようとしておるのであります。

本会としては、こうした状況をいち早くキャッチしてこれを会員各位にお知らせして、それぞれで研究して対策を講じていただくことと、大資本と対抗することはできません。そこで考えられることは協業化や協同組合として一本にまとまって活動することに活路を見出すこととあります。そこで本年二